

## 【実践報告】

# 公立小・中学校教員採用試験などに向けた取組の実際

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 佐伯育郎

## 1 平成27年度・教員採用試験対策チャレンジセミナーの実際

本学では、学生からの要望に応える形で教員採用試験対策チャレンジセミナーを行っている。春期休業中セミナー、前期セミナー、二次試験対策セミナーの3つに大別できる。教員採用試験の内容に準じており、各教科領域の学習指導要領解説などの筆記試験対策、論作文、学習指導案作成、グループワーク、面接、模擬授業、音楽・体育・図画工作の実技対策など多岐にわたる。正規の授業ではなく、課外で行われる自由参加型のセミナーであり、学生の要望に答える形で本学教員によって開催されることを前提としており、学生の主体的な学びを支援するものである。外部の業者に教員採用試験対策を委託している大学、授業料とは別に受講料を徴収している大学もある中、本学の取組には以下の特色がある<sup>1)</sup>。

### 【教員採用試験対策チャレンジセミナーの特色】

- ① 学生の自主学習会とタイアップし、それを支えるために実施するセミナーであり、本学の教職課程教育を補充・深化・統合する場としても位置付けている。
- ② 本学専任教員による支援体制が基本であり、それぞれの専門性を生かしつつ、課外を利用してボランティアでサポートを行う。
- ③ 個々の学びの履歴、特性といった学生の実態を踏まえた上での指導、専任教員による進路保障の一環を目指している。

### 1.1 春期休業中セミナー

3年次後期の教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校・本実習）終了後、本学での学びを再開した学生たちは、教員採用試験に向けた取組にも熱が入ってくる。ゼミ単位や受験自治体単位などで学生による勉強会が本格化する。

春期休業中には、教員採用試験対策チャレンジセミナーが実施された（表1）。3年生のセミナー代表が事前に開講希望講座を検討し、教員への依頼・調整を行い、時間割を組む（表2）。昨年度の19講座から2講座増え、全21講座が開講された。日程も3日延長し、12日間となった。初等教育学科教員の他、人間福祉学科教員による講座も開催され、学科を越えた取組として定着しつつある。初回は参加意識・学習意欲を高めるためにスタート会を実施し、最終回では反省会を行うことで取組を締め括った。

【表1：春期休業中セミナー一覧】

内容	担当	詳細
国語	橋村	学習指導要領の解説、過去問の解説
算数	今崎	算数科教育法での内容の復習
社会	村上	学生が苦手とする単元の解説
理科	高橋	学習指導要領の解説
体育	川西	学習指導要領の解説

音楽	大野内	学習指導要領の解説, 弾き歌い, 声楽, リコーダー, ピアノ
図画工作	佐伯	学習指導要領の演習・解説, デッサンの実技・ポイント
道徳	村上	学習指導要領の解説など
総合	高橋	学習指導要領の解説
特別活動	今崎	学習指導要領の解説
総則	今崎	学習指導要領の解説
教育法規	杉山	教育法規に関する穴埋めの問題の演習, 解説
教育原理	徳本	過去問の解説
教育史	徳本	過去問の解説
教育心理学	牧	過去問の解説
特別支援教育	木村・李木	特別支援教育についての講義
集団討論	徳本・佐伯	集団討論の演習, ポイント
グループワーク	岡・森	グループワークのポイント
自己PR・願書の書き方	村上	書き方のポイント解説
答申・通知等	今崎	答申・通知の解説, 学習のポイント
論述形式問題書き方	森下	過去問の解説, 書き方のポイント

【表2：春期休業中セミナー時間割】

	2/16 (月)	2/17 (火)	2/18 (水)	2/19 (木)	2/20 (金)	2/23 (月)
1 コマ	スタート会	総則 今崎	集団討論 徳本・佐伯	図工・デッサン 佐伯	道徳 村上	
2 コマ	グループワーク 岡・森	教育史 徳本	自己PR・願書 村上	声楽・リコーダー 大野内	道徳 村上	図工・理論 佐伯
3 コマ	社会 村上	答申・通知 今崎	教育原理 徳本		総合 高橋	特別活動 今崎
4 コマ	教育心理学 牧	教育心理学 牧		理科 高橋		

	2/24 (火)	2/25 (水)	2/26 (木)	2/27 (金)	3/ 2 (月)	2/23 (月)
1 コマ	論述形式問題 森下	算数 今崎	体育 川西	集団討論 徳本・佐伯	特別支援教育 木村・李木	弾き歌い 大野内
2 コマ	総合 高橋	国語 橋村			特別支援教育 木村・李木	国語 橋村
3 コマ	理科 高橋	音楽 大野内	教育法規 杉山	教育法規 杉山	特別支援教育 木村・李木	反省会
4 コマ		ピアノ 大野内			特別支援教育 木村・李木	

筆者が担当したセミナーの例を挙げ、参加状況等について具体的に述べる。図画工作専門の筆者が担当した図工セミナーは実技問題の演習（人物画）とポイント解説（2月19日、25人出席、昨年度は46人）、学習指導要領の問題演習と解説（2月23日、38人出席）の2回を行った（昨年度より1コマ増）。学生の感想を抜粋して紹介する。

- ・人物画では、プロポーションがとても大切だと感じました。手や腕など、動きを司るところが出ると描きにくいのもっと学びたいです。
- ・正面を向いて立っている男の子、女の子を描きました。プロポーション（何頭身か）を意識することと、手・指を描くこ

とが課題だと思いました。練習していきたいです。

- ・問題を解いて学習指導要領を見てみるというやり方はとてもわかりやすかったです。復習もしっかりしようと思います。
- ・理論を単に覚えるのではなく、学年や段階的にとらえていくことが大切だと感じました。他教科との関連も図りたいです。

徳本達夫教授と筆者が担当した集団討論セミナーは、2コマ実施した。2月18日は40人出席（昨年度は54人）、2月27日は23人出席（昨年度は35人）であった。4～5人のグループで討論を行った。教員が設定した討論のテーマから任意に選択させ、討論をする学生とそれを評価する学生とに分かれて実施し、その後交代した。受験側、採用側の両方を体験することによって、学生自身に評価の観点を考えさせた。今年度は、これまで手書きで提示していた討論の問題を、PowerPoint（Microsoft）を用いて作成し、電子黒板で提示した。

【写真1・2：春期スタート会】



【写真3：春期・集団討論セミナー】



【写真4：春期・図工セミナー】



セミナー代表の学生がまとめた春期の成果には、次のものがあった。

- ・各県の対策の仕方・ポイントを知ることができたので、各県ごとに対策を立てようと思うことができた。
- ・セミナーがあったことで、生活リズムをつくることができた。
- ・授業では扱われなかった内容を学ぶことができた。

課題・改善点としては、次のものが挙げられた。

- ・セミナー委員に依存しがちであったので、参加者全員で協力して取り組むようにする。
- ・やや受け身の姿勢になっていたので、主体的・自主的に参加するようにする。
- ・授業プリントは先生方をお願いするのではなく、各ゼミで印刷担当を決めて対応する。

## 1.2 前期セミナー

4年次前期、授業や卒業研究などと並行して教員採用試験対策チャレンジセミナーも行われる。セミナー代表が事前調査を行い、全員が参加できるよう時間割を組む。表3・4以外では、国語系教員（岡・



黒木・橋村・森・森下) やゼミ担当教員による小論文・自己PR文の添削指導等, 時間割にない支援も随時行われている。

筆者が担当したセミナーの例を挙げ, 参加状況等について述べる。筆者が担当した図画工作セミナーは, 4月23日から7月16日までの11コマ実施した(昨年度は8コマ)。8回実施した昨年度より, 3回多かった。昨年度は平均25.8人(最多46人, 最少14人), 今年度は平均15人(最多23人, 最少5人)であった。内容的には, 学習指導要領の問題演習などの理論編5回と, デッサンなどの実技編6回とを交互に実施した。今年度は, 実技編でICTを活用した。PowerPointによるスライドショーを用いて問題・資料提示, 書画カメラ(実物投影機)を用いて学生作品の相互鑑賞を行った。図画工作セミナーに対する学生の感想を抜粋して紹介する。

- ・デッサンでは, 一人ひとりの絵を細かく指導していただき, 友だちの絵も見ることができたので, とても勉強になりました。理論編では指導要領について過去問を解きながら解説をしていただき, 1人で学習するよりも内容が頭に入りました。
- ・実技も理論も毎回充実しており, どちらも幅広く学ぶことができた。交互に同じ回数程度行うことで, どちらも程よく対策できた。
- ・同じテーマの絵を2回描くことで, 自分の成長を見ることができたことや, 様々なテーマで描けたことがよかった。理論も問題をたくさん解くことができてよかった。

課題としては, 筆者と学生との空き時間を調整することが難しく, 18時からの実施となったこと, 理論編では問題数が多いにも関わらず解く時間が短いことが挙げられた。事前に問題を解いて来て, セミナーでは解説のみを実施したらどうかという学生の意見もあったので, 今後取り入れたい。

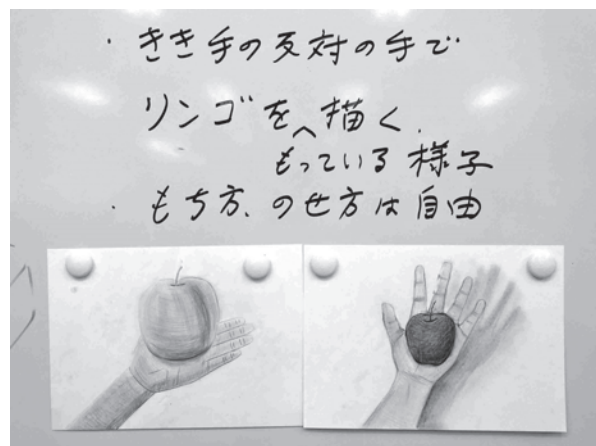
図工セミナー以外では, デッサンの添削指導(広島県対策), 図工実技セミナー(鳥取県対策)も行った。鳥取県対策は, 4月22日から7月15日までの間に10コマ実施した。

徳本教授と筆者が担当した集団討論セミナーは, 4月21日から7月14日までの10コマ実施した。平均10人の参加であったが, 毎週のように熱心に参加した学生も見られた。学生の感想を抜粋して紹介する。

- ・様々な教育問題について, いろいろな人と意見を交流することで考えが深まりました。また, 討論を通してもっと社会に目を向けていかなければならないと思いました。
- ・はじめは上手く話せなかったり, 意見が出せなかったりしたが, 段階を踏むにつれて話す姿勢やより良い意見を出すことができるようになった。様々な視点を知ることで, 広い視野を持つことができるようになった。
- ・教採に向けてではなく, 教師を目指す者として, また人間として考えなければならないことを, 人の意見を聞きながら考えることができ, とても深い学びになったと思います。

反省点としては, 参加者数が少なかったことが挙げられた。集団討論が試験科目にない自治体の受験者, 幼児教育コースの学生, 下学年の学生などの参加も積極的に募るようになることが今後の課題であるが, あくまでも学生による自主的な参加が望まれる。とりわけ4年生に対しては, 単なる教員採用試験対策というだけでなく, 教師としての逞しい実践力を培うためのセミナーという前提に立ち返れば, たとえ試験科目にないとしても自ずと意識も変わってくるのではないだろうか。

【写真5・6：前期・図工実技セミナー（鳥取県対策）】



【表3：前期セミナー一覧】

内容	担当	詳細
グループワーク	森	グループワークの演習
図画工作	佐伯	図工の理論問題の演習、デッサンの実技・ポイント
集団討論	徳本・佐伯	集団討論の演習、ポイント
体育実技	川西・体育専修学生	体育館・運動場での実技演習
理科	高橋	過去問の解説
小論文	森下	小論文の添削
答申	岡	答申の解説

【表4：前期セミナー時間割】

	月	火	水	木	金
1 コマ			集団討論 佐伯・徳本		答申 岡
3 コマ		理科 高橋	体育実技 川西		答申 岡
5 コマ	グループワーク 森				
6 コマ				図画工作 佐伯	

### 1.3 二次試験対策セミナー

7月8日にスタート会を実施し、取組への意欲を高めた後、夏期休業に入ると二次試験対策セミナーを本格的に開始する。

【写真7・8：夏期スタート会の様子】



二次対策の内容は、模擬授業、面接練習、集団討論、音楽実技（表6）、体育実技等である。事前にセミナー代表が教員のところへ出向き、模擬授業と面接指導の担当時間を決める。セミナー代表が表を作成し、希望する時間帯に学生が各自名前を記入する。1コマにつきおおよそ4人以上の学生が参加する。複数教室を使用して模擬授業と面接指導を同時展開している。

二次対策では、卒業生も参加し、4年生とともに模擬授業などを行う。4コマ後にも、面接指導や模擬授業の練習等は行われている。表5は広島県対策を主としたものであり、表に含まれない支援も行われている。8月後半から9月中旬にかけて愛媛県・島根県・鳥取県・大分県対策を中心にセミナー

は継続した。9月に入ると公立保育士試験対策も本格化し、10月からは学校栄養職員の対策も行われた。筆者も、集団討論や面接などを中心に支援を行った。

今年度の模擬授業において、筆者が指導を担当したのは延べ89人（昨年度は69人）であった。8月4日の広島県対策から9月11日の鳥取県対策まで二次対策・模擬授業が続いた。

本学、特に初等教育学科の教員は学生に対する指導・支援に授業外での多くの時間を割いている。筆者の一例ではあるが、8月3日から9月11日まで延べ37人の二次対策・面接指導を行った。9月1日から始まった幼児教育コースの学生に対する面接指導なども含めると、筆者が担当した学生は11月26日までで延べ56人（昨年度は81人）となった。

【表5：二次試験対策セミナー一覧】

	8月3日（月）				8月4日（火）				8月5日（水）				8月6日（木）				8月10日（月）			
	面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬	
1	スタート会				川西	佐伯	/	/	/	/	/	/	森下	田頭	川西	佐伯	/	田頭	岡	/
2	森下	/	今崎	川西	橋村	/	/	/	/	/	/	森下	田頭	川西	佐伯	/	田頭	/	/	
3	体育実技				森	/	/	佐伯	/	/	川西	吉田	田頭	川西	佐伯	/	/	/	/	
4	森	吉田	今崎	佐伯	森下	/	/	佐伯	/	/	高橋	吉田	田頭	川西	佐伯	/	/	/	/	

	8月11日（火）				8月12日（水）				8月13日（木）				8月14日（金）				8月17日（月）			
	面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬	
1	徳本	/	高橋	/	岡	森下	今崎	佐伯	今崎	/	岡	佐伯	岡	/	今崎	佐伯	川西	/	今崎	佐伯
2	徳本	吉田	/	今崎	岡	森下	今崎	佐伯	今崎	橋村	岡	佐伯	岡	橋村	今崎	佐伯	川西	/	今崎	佐伯
3	田頭	吉田	岡	今崎	体育実技				今崎	橋村	岡	佐伯	佐伯	橋村	今崎	岡	川西	/	今崎	/
4	田頭	森	岡	今崎	体育実技				今崎	橋村	/	佐伯	佐伯	橋村	今崎	岡	川西	森	今崎	岡

	8月18日（火）				8月19日（水）				8月20日（木）				8月21日（金）			
	面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬	
1	今崎	佐伯	岡	村上	森	佐伯	村上	今崎	/	/	高橋	佐伯	/	/	/	
2	今崎	佐伯	岡	村上	森	佐伯	村上	/	吉田	/	高橋	佐伯	/	/	高橋	村上
3	今崎	佐伯	村上	/	吉田	/	村上	高橋	吉田	/	村上	牧	森	高橋	村上	
4	今崎	佐伯	村上	/	吉田	佐伯	村上	高橋	吉田	/	高橋	村上	牧	/	高橋	村上

【表6：二次試験対策・音楽実技セミナー一覧】

日程	時間	大野内	善本
7月28日	13:10-14:10		2名
7月30日	11:30-12:00		1名
7月31日	11:30-12:00		1名
8月3日	9:00-10:00	3名	
	10:00-11:00	1名	
	11:00-12:00	6名	
	13:00-14:00	6名	
8月4日	14:00-15:00	6名	
	15:00-16:00	6名	
	9:00-10:00	3名	
	10:00-11:00	2名	
	11:00-12:00	1名	
	13:00-14:00	6名	
	15:00-16:00	3名	
	18:00-18:30		1名

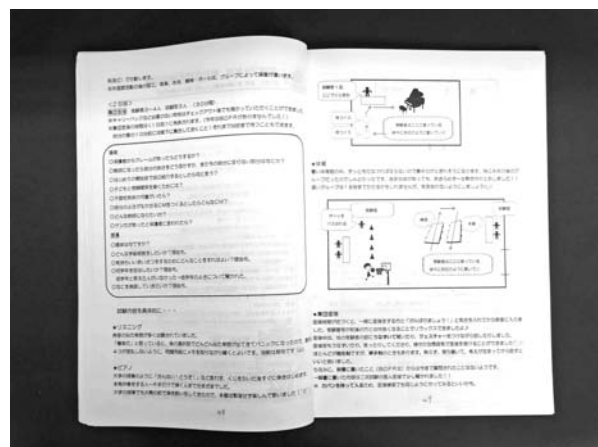
日程	時間	大野内	善本
8月5日	17:00-18:00		2名
8月6日	13:00-14:00	2名	
	14:00-15:00	5名	
8月7日	9:00-10:00		1名
	10:00-11:00		2名
	12:30-14:00		6名
8月10日	15:00-16:00	5名	4名
	9:00-10:00	5名	
	11:00-12:00	5名	
8月17日	13:00-15:00		6名
8月19日	11:00-12:00		3名
8月21日	13:00-14:00		2名

## 2 「顔晴り（がんばり）」の取組の実際

### 2.1 教員採用試験等報告書「顔晴り」

「顔晴り」とは、教員採用試験等報告書のことである。従来通り学生が主体の取組ではあるが、教職センターも関与する形となり、全学的な実践となりつつある。

【写真9・10：教員採用試験等報告書「顔晴り」】



今年度の報告書は132頁で、チャレンジセミナー、自治体ごとに行われた学習会、ゼミ単位での学習会、小学校教員採用試験、一般企業採用試験、保育園と非常に幅広い内容となっている。各試験に向けた学習方法、採用試験の実際、後輩へのアドバイスが詳細に記述されている。卒業生が受験した小学校教員採用試験についても掲載されている。

この報告書は、学年を問わず希望する学生に配付しており、教員採用試験等の受験を考えている学



生にとって貴重な資料となっている。指導・支援する上で、教員にとっても非常に役立つ資料である。

## 2.2 教員採用試験等報告会「顔晴りの会」

「顔晴りの会」とは、教員採用試験等報告会のことであり、今年度は11月27日5コマ目に641教室で実施された。例年通り、全体会、分科会の2部構成で行われた。

【写真11：「顔晴りの会」全体会の様子】



【写真12：「顔晴りの会」分科会の様子】



全体会では、初等教育学科4年生チューターによる挨拶の後、小学校教員採用試験を受験した学生3人、一般就職をした学生1人からの報告が行われた。

分科会では、広島、中国地方（広島以外）、愛媛、九州、一般就職の5ブースに分かれて、教員採用試験報告書に沿って自治体の傾向に沿った学習方法等の報告、質疑応答が熱心に行われた。1年生から4年生を含めて150人程度の参加者があった。

## 3 平成27年度実施公立小・中学校等教員採用試験の結果

平成27年度に実施された公立小・中学校等教員採用試験の結果は、表6の通りであった。

【表6：公立小・中学校等教員採用試験の結果(判明分)】

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		栄養教諭		計
	在	卒	在	卒	在	卒	在	卒	在	卒	
川崎市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
島根県	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
鳥取県	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
岡山県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
広島県・市	22	13	0	2	0	0	0	1	※1	0	39
山口県	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
愛媛県	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
香川県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
兵庫県	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大分県	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
長崎県	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
熊本県	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	31	26	0	2	0	0	0	1	1	0	61

※ 学校栄養職員



## 4 成果と課題

平成27年度は、昨年度に比べて受験者の母数が少なく、合格者減が懸念されたが、最終合格率はほぼ昨年度並であった。教員採用試験対策チャレンジセミナーは昨年度までの取組を踏襲しつつ、講座数・開講日数も増えた。学生主体による運営を維持しながらも、教員による支援も手厚くなり、取組は年々充実してきている。セミナー代表を中心として、学生自身も協働性・同僚性を生かした取組ができていたことが、今年度の結果につながったものと考えられる。ただし、合格者数を安定・増加させることが取組の最終目的とならないよう留意すべきである点については言うまでもない。本取組のねらいは、養成－採用－研修の長期的視点に立ち、教師としての資質・能力を向上させることである。

課題としては、受験自治体の試験科目にないセミナーに関しては、学生の参加が芳しくない傾向が挙げられる。余裕がない学生の状況と推察されるが、最短距離で合格するためのセミナーという意識にとらわれなければ、自ずと参加するようになるであろう<sup>2)</sup>。二次対策セミナーの模擬授業において、複数の学生に画一的な印象の模擬授業があったとの参加教員からの指摘があった。参加した学生がたまたま似通った授業を行った可能性も高いが、本学のセミナーでは画一的な指導を目指しているわけではないので、基礎・基本をおさえながらも学生の個性・独自性を伸ばすような指導が今後さらに必要であろう。「顔晴り」「顔晴りの会」ともに未だ初等教育学科中心の取組となったことも、課題として挙げられる。「顔晴り」の裏表紙には、教職センターではなく、初等教育学科の名前を冠していた。「顔晴りの会」では他学科の参加者が認められず、中心となるべき3年生の参加者が50人に満たない状況であった。学科・学年を越えた学生への広報もさらに充実させる必要がある。

教職センターの課題としては、学生の主体的な学びを大切にしながらも、教員の支援体制をより全学的になるよう改善する必要がある。土台となる大学教育と教員採用試験対策に向けた取組の往還を今後さらに充実させるとともに、大学全体で学生を支援していくような体制づくりをさらに進めていかなければならない。

### 註・引用・参考文献

- 1) 岡山大学では、「教員採用試験対策講座」（主催：岡山大学キャリア開発センター、運営：岡山大学生協同組合）を実施している。平成27年12月中旬から開催したこの講座の場合、約50コマの講座に各種面接指導と出願書類添削を併せて約12万円（税込・テキスト代込）を学生から徴収している。岡山大学だけでなく、同様の方式を導入している大学は少なくない。外部委託方式は、養成教育の実践的改善にどこまで有効かは疑問である。
  - 2) 佐伯育郎・徳本達夫「教師教育における集団討論の意義と実践（Ⅱ）～本学における取組の実際～」(『広島文教女子大学 教職センター年報 2015年第3号』広島文教女子大学教職センター、2015年所収) 徳本は追記として、次のように述べており、筆者も同意見である。「近年の学生は計算高い。同じ事を獲得するなら、最小努力の最大効果をねらう。とはいえ、計算高い学生は、その実、計算高くない。無料で、しかも学生の実態が理解できている担当者が行う。しかも、一定程度以上の成果を発揮している。費用対効果という観点からすれば、授業料は別として、元手0円で初志が叶う。これ以上の費用対効果はない。須く大学開講の、無償の講座を受講すべし、である。無償で講座を開講する担当者たちは、卒業生が質の高い教育を求め続けることが最大の恩返しであると認識している、稀有な人びとである。」(42ページ)
- ・岡利道 他編『初等教育学入門』広島文教女子大学 初等教育学科 2009年
  - ・佐伯育郎「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際」(『広島文教女子大学 教職センター年報 2015年第3号』広島文教女子大学教職センター、2015年所収)
  - ・徳本達夫・佐伯育郎「教師教育における集団討論の意義と実践（Ⅰ）(Ⅱ)」(『広島文教女子大学 教職センター年報 2015年第3号』広島文教女子大学教職センター、2015年所収)
  - ・『顔晴り』広島文教女子大学初等教育学科、2015年